

Agri Culture

第43号(2012年1月1日)

有グノカルチャー



〔発行元〕

有田振興局地域振興部農業振興課

有田郡湯浅町湯浅 2355-1

TEL: 0737-64-1273

FAX: 0737-64-1274



新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えの事と心よりお慶び申し上げます。

また、平素は農業振興につきまして格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、3月11日の東日本大震災や、本県に甚大な被害をもたらした台風12号等自然災害の多い年でした。みかんの栽培面でも、6月下旬の高温による生理落果や秋の高温と降雨による大玉・浮き皮等、出荷・販売に大変苦勞された年で自然の力や異常気象を改めて思い知らされた年でした。

一方、国においては直接支払の本格実施、農業関連予算の削減、TPPへの参加検討等農業施策の大きな転換が図られています。県といたしましては、国の動向を視野に入れながら、より一層農業振興に取り組んでまいりますし、当課におきましても、有田地域の課題解決に向け、各種施策の活用を図りながら皆様とともに、職員一丸となって取り組む所存でございますので、本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



有田振興局 地域振興部 農業振興課 課長 片山 泰弘
職員一同

農業団体の活動

■ 有田地方農業士協議会



有田地方農業士協議会(259名)では、研修会や情報交換を通じ、生産技術の向上と農業経営の発展を目指しています。本年度は、「鳥獣害対策の現状と取り組みについて考える」と題し、奈良大学の高橋春成教授による講演と県農林水産総合技術センター果樹試験場において防護柵設置園の見学を行い、多数の会員が出席しました。

また、農業士女性部会では、田辺市の秋津野ガルテンでの地域活動の研修とみなべ町の梅振興館で梅染めの体験を行い、研修を通じて資質向上を図るとともに交流を深めました。

■ 有田地方4Hクラブ連絡協議会



管内の5クラブ(43名)では、経営や栽培管理技術の向上など、有田地域の若手農家の活性化に向け様々な活動に取り組んでいます。本年度は、お互いの知識や技術を競い合う技術交換大会を開催し、成績優秀者7名が有田地方の代表として和歌山県農村青少年技術交換大会に出場し上位入賞しました。また、有田地方農村青年交流会を開催し、漆器の蒔絵体験やボウリング、懇親会をとおして女性参加者との交流を深めました。

その他にも、ソフトボール大会で交流を深めたり、有田地方青年農業者会議(プロジェクト発表)や栽培技術の研修会等を開催し、お互いの資質向上に取り組んでいます。

■ 有田地方生活研究グループ連絡協議会



生活研究グループ連絡協議会(227名)では、地産地消や食育の取り組み・加工品開発を中心に活動しています。

今年度は視察研修やリーダー研修会を開催しました。また、小学生を対象に梅干し作りや郷土食料理体験などを行っています。

■ 有田ネット21



有田ネット21(31名)はパソコンを農業経営に活用しているグループで、インターネットを活用して全国の農業者との情報交換や、講師を招いての農業技術や経営管理方法の研修会も開催し技術の研鑽を積んでいます。また有田管内の会員以外のパソコン初心者に対しても操作方法等を指導するなど、幅広く活動しています。

農業教育支援・食育活動

◎糸我小学校

有田市指導農業士の山崎佳彦氏や糸我地区の方々の協力のもと、アイガモ農法による無農薬の米作り体験を実施しました。

アイガモは卵から小学校で飼育して孵化させた後、水田へ放しました。また、古代米の栽培にも取り組みました。



◎山田小学校

湯浅町山田地区の農業士らで構成する学校応援団協力のもと、年間を通じた農園活動を実施しています。農園では夏野菜やさつまいも、大豆等を栽培し、夏野菜は湯浅町農業士会農産物直売所「岡正」で販売を行ったり、大豆は醤油造りや豆腐作りに使用する予定です。また、10月には地域の方々を招いての収穫祭を実施しました。



◎御霊小学校

みかんの摘果及び収穫体験を行いました。

収穫体験では、有田川町指導農業士・玉置博之氏の指導のもと、はさみをもって実際に収穫を行い、試食を行いました。収穫したてのみかんに「美味しい!!」と何個もほおばっていました。



◎保田小学校

有田市農業士会の指導のもと、みかんの摘果及び収穫体験を行いました。

収穫後はみかんを搾ってジュースを作りました。

絞りたてのみかんジュースはとても甘くて美味しいと好評でした。



◎山田・田栖川・田村小学校(3校合同)、箕島小学校

地域に根ざした食育・地産地消推進事業「梅加工体験」を行いました。生活研究グループ員（食育推進ボランティア）の指導のもと、みんなで楽しく梅干し作りと、梅ジュース作りを行いました。

◎山田・田栖川・田村小学校(3校合同)、五西月小学校

地域に根ざした食育・地産地消推進事業「郷土食料理体験」を行いました。生活研究グループ員（食育推進ボランティア）の指導のもと、調理体験を行ないました。また、地元農業についても勉強をしました。



有田農業技術者会の活動

「日本一のみかん産地を支える技術員を目指して!」

有田農業技術者会は有田地方の農業関係機関に属する技術者間の相互理解と親睦、技術や知識の研鑽・深化を目的に昭和46年に設置された団体で、これまで有田地方の農業振興を担う人材育成や技術の研鑽に貢献してきました。

会員数は76名(平成23年6月7日現在)で、構成員はJ A ありだ、J A 和歌山県農ありだ駐在事務所、和歌山中部農業共済組合、近畿大学湯浅附属農場、有田中央高校及び和歌山県(有田振興局農業振興課、果樹試験場、農林水産総合技術センター普及課)に所属する職員(主に果樹担当)となっています。

活動内容は、表の様な定例的な活動の他に、管内全域で懸案となっているテーマについて取り組んでいます。

平成23年度については、晩秋期の多雨と高気温で多発する温州みかんの「浮き皮」の発生抑制について、広川町内に実証園を設置し、植物生長調節剤とマルチ被覆を組み合わせた技術の適用効果について検討しました(※)。

時期	活動内容	目 的
5月	総会・研修会	事業報告、事業計画、役員改選等
7～9月	カメムシ発生 実態調査	果樹を加害するカメムシの発生実態を把握し、今後の防除指導の参考とする
2月	せん定研修会	果樹栽培技術の根幹といえる、せん定技術の習得、さらなる向上を図る

現在、得られたデータを整理、解析中です。

来年度についても同様の内容で試験を実施し、処理効果の安定性について検証したうえで、温州みかん栽培農家への技術指導の基礎的知見として活用する予定です。



カメムシの捕獲による発生実態調査



浮皮軽減実証園における現地検討会

※(社)全国農業改良普及支援協会による「平成23年度地球温暖化戦略的対応体制確立事業に係る『農作物の高温障害対策技術の確立に関する現地技術実証調査』」の一環として実施しています。

高病原性鳥インフルエンザ対策への取り組み

平成23年10月26日(水)、有田振興局では高病原性鳥インフルエンザの発生に備え、県、市町等の関係者約80名が参加し、関係部局の対応方法や防疫措置などの確認を行うとともに、ウイルスの感染拡大を最小限に食い止める初動体制の充実強化を図るため、防疫演習を実施しました。

この演習は有田振興局管内のA養鶏農家で高病原性鳥インフルエンザが発生したと想定し、防疫



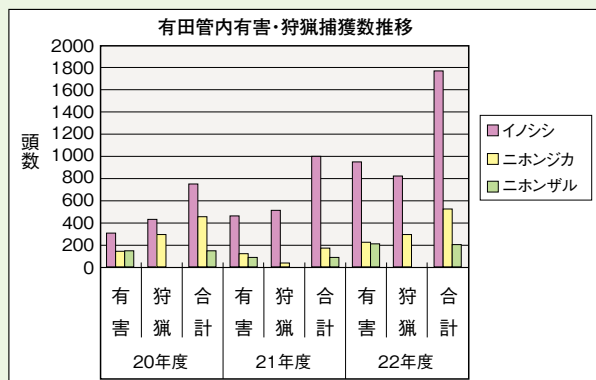
計画の策定、健康調査の実演、防疫活動訓練、消毒ポイントでの作業訓練などを行いました。

また、高病原性鳥インフルエンザの発生を未然に防ぐために、防鳥ネットの設置や動力噴霧器の導入を行う家畜伝染病防疫強化事業にも取り組んでいます。

鳥獣害対策への取り組み

【有田管内における鳥獣害防止対策の状況】

1 有田管内における有害鳥獣の捕獲実績(有害捕獲+狩猟)



捕獲数は近年増加傾向にあり、平成22年度においてはイノシシ、シカ、サルの捕獲数合計は2,531頭で前年対比184%となり急激な増え方をしています。

しかしながら、農作物被害額が減少するどころか平成22年度で56,822千円に上り、過去最高となりました。この様に捕獲数が伸びているにもかかわらず、被害が減少しない現状があり、防護柵の設置や生息環境管理対策等との複合的な対応が今後とも必要です。

2 平成23年度有田地方における対策事業(国庫補助事業、県単独補助事業)の実施状況

● 鳥獣被害防止総合対策事業(国庫)

① 広川町(イノシシ、シカ、サル対応型金網電気柵7,751m)

事業費: 41,500千円(うち国費22,825千円)

② 有田川町(イノシシ、シカ対応型金網柵8,000m)

事業費: 17,600千円(うち国費17,600千円)

※国の事業は補助形態が選択可能となっており、広川町については、資材費、労賃等の55%補助、有田川町は資材費のみ全額補助となっています。

● 農作物鳥獣害防止総合対策事業(県単)

① 防護柵設置支援事業(県費1/3以内)

設置延長距離(予定): 約110km

事業費(うち県費): 約67,000千円(約21,300千円)

② わな等設置支援事業(県費1/2以内)

わな購入数(予定): イノシシ捕獲檻20基、サル囲いわな4基

事業費(うち県費): 約2,853千円(約1,400千円)

情報提供

■ 農業経営管理のすすめ



自家の経営内容を把握するための記帳は根気のいる作業です。

農業振興課では、市販データベースソフトを活用してパソコンで簡単に農作業管理から雇用管理、販売管理まで行える有田農業専用のデータベースを構築中です。農業日誌や資材の購入記録から簡単な分析、出荷伝票や入金伝票などの結果を入力して販売状況を把握することもできます。本年4月ごろから講習会などを計画しながら公開予定です。

受賞者の紹介

■ 和歌山県農林水産業賞



○しみずグランドカバー生産組合（代表者：福本忍氏）

平成7年に参加戸数45戸で設立。少子高齢化の進む清水地域において、花き類(グランドカバー)を生産することで、周年就労の実現と農業経営を安定させました。

栽培農家を組織化し生産基盤を整え、後継者の育成に努めることで、1ターン者を含む3名の若者を後継者として地元に着定させるなど、地域農業の振興に多大な貢献をされています。

■ 第60回全国農業コンクール園芸部門・毎日新聞和歌山支局長賞

■ 農業・農村6次産業化における優良取組表彰に係る近畿農政局長賞(近畿農政局主催)

■ 平成23年度全国優良経営体表彰 農林水産省経営局長賞



○株式会社早和果樹園（代表者：秋竹新吾氏）

昭和54年に「早和共撰」として発足して以来、みかんの高品質栽培や新品種の導入、販売強化に取り組むことで産地発展に寄与するとともに、省力化や家族経営協定締結による経営改善モデル農家として地域農業に貢献されました。

平成12年に法人化、平成17年には株式会社早和果樹園となり、地域の高品質みかんを使ったジュース「味ーしばり」をはじめ、みかんのシロップ漬けや、ポン酢などの加工品を次々と開発、非農家出身の若者を雇用して新規就農者を確保する役割を果たし、従業員数35名の組織へと成長させてきました。

自社の成長だけでなく、様々な取組を通じて、地域農業の振興に多大な貢献をされています。

お知らせ



「有田みかんデータベース」では、柑橘類の着花調査結果や温州みかん果実品質調査結果をはじめ、地域内の雨量検索など、みかんに関する色々な情報を発信していますので、ぜひご活用ください。

URL : <http://www.mikan.gr.jp/>

Eメール : arida@mikan.gr.jp

携帯電話専用

URL : <http://www.mikan.gr.jp/i/>

